

22PO-pm389

タバコに関する薬剤師の意識調査（5）

○小本 健博¹、田中 三栄子²、設楽 拓哉¹、手倉森 智哉¹、川原 千郁³、小松 健一²、川嶋 恵子²（¹ココカラファインヘルスケア、²北海道科学大学、³ナカジマ薬局）

【目的】2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて公共スペースの禁煙化が進む一方で、加熱式タバコ市場は急速に拡大している。そこで、薬剤師に「加熱式タバコの認知度」について調査を行った。

【方法】調査は、北海道の病院、調剤薬局、薬品メーカーに勤務している薬剤師を対象に『タバコに関する調査』を実施した。調査方法は無記名式、多項選択法とし、調査期間は2018年6月であった。調査内容は、基本属性（性別、年齢）、勤務先、実務経験年数、影響がある疾患、加熱式タバコ、タバコ対策、研修会についてである。データ解析は、エスミ Mac 統計解析 V2 を用いて解析を行なった。

【結果】薬剤師 216 名のうち、有効回答数は 209 名（96.8%）であった。基本属性は、男性 117 名（56.0%）、女性 92 名（44.0%）、20 代（55 名）、30 代（57 名）、40 代（57 名）で 80.9% を占めた。勤務先は、病院 64 名（30.6%）、調剤薬局 120 名（57.4%）、薬品メーカー 25 名（12.0%）で、実務経験 10 年以上のベテラン薬剤師は 115 名（55.0%）であった。タバコの影響がある疾患の『CKD』、『糖尿病』、『認知症』、『白内障』は 50% 以下の理解度であり、『加熱式タバコの認知度』は 187 名（89.5%）で、『iQOS』が 170 名（81.3%）と最も知られていた。日本のタバコ対策は諸外国に比べて『遅れている』130 名（62.2%）であったが、『禁煙指導の研修会参加経験者』や、今後、禁煙指導の研修会の『参加希望者』はいずれも低値であった。

【考察】勤務先の定例勉強会で『禁煙』を取り上げる職場や、禁煙指導の研修会参加希望者も低率である残念な結果であった。このことから、日本禁煙学会が薬剤師会と薬品メーカーとの共催による勉強会やセミナーを開催する事を期待したい。